

## 大本山永平寺：七堂伽藍（仏殿）

世界の平和のための祈りは、伽藍の中心である仏殿で、1日に2回捧げられている。お堂の建物は、道元禅師（1200-1253）が中国で修行した太白山の天童寺の堂を基にしている。

仏殿の中央の祭壇には、三体の仏像が安置されている。中央の主像は釈迦牟尼仏で、右側は阿弥陀仏、左側は弥勒菩薩である。阿弥陀は無限、永遠、そして極楽の遍在する仏様であり、釈迦牟尼は人類の歴史の生きた仏様であり、弥勒菩薩は遠い未来に現れる仏様である。これらの3つの仏様は共に、過去、現在、未来の三世仏である。

祭壇の上の木製パネルには、禅仏教の歴史と釈迦牟尼仏から中国の禅師への伝承の場面を描いた一連の精巧な彫刻が彫られている。